



佐賀大学における質保証の取り組み

皆本 晃弥

佐賀大学大学院工学系研究科

佐賀大学全学教育機構高等教育開発室

佐賀大学IR室 佐賀大学評価室

2016年8月5日



内部質保証と精度保証付き数値計算

- 内部質保証 (Internal Quality Assurance)
 - 大学等が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、それによってその質を自ら保証すること。
 - 出典: 高等教育に関する質保証関係用語集(第4版)、大学改革支援・学位授与機構
 - 教育研究活動を行うだけでなく、その質も保証
- 精度保証付き数値計算・数値的検証法 (Numerical Verification)
 - 問題に対する解の存在と誤差限界を数学的に保証するような数値計算法
 - 数値計算をするだけでなく、計算結果の品質を保証

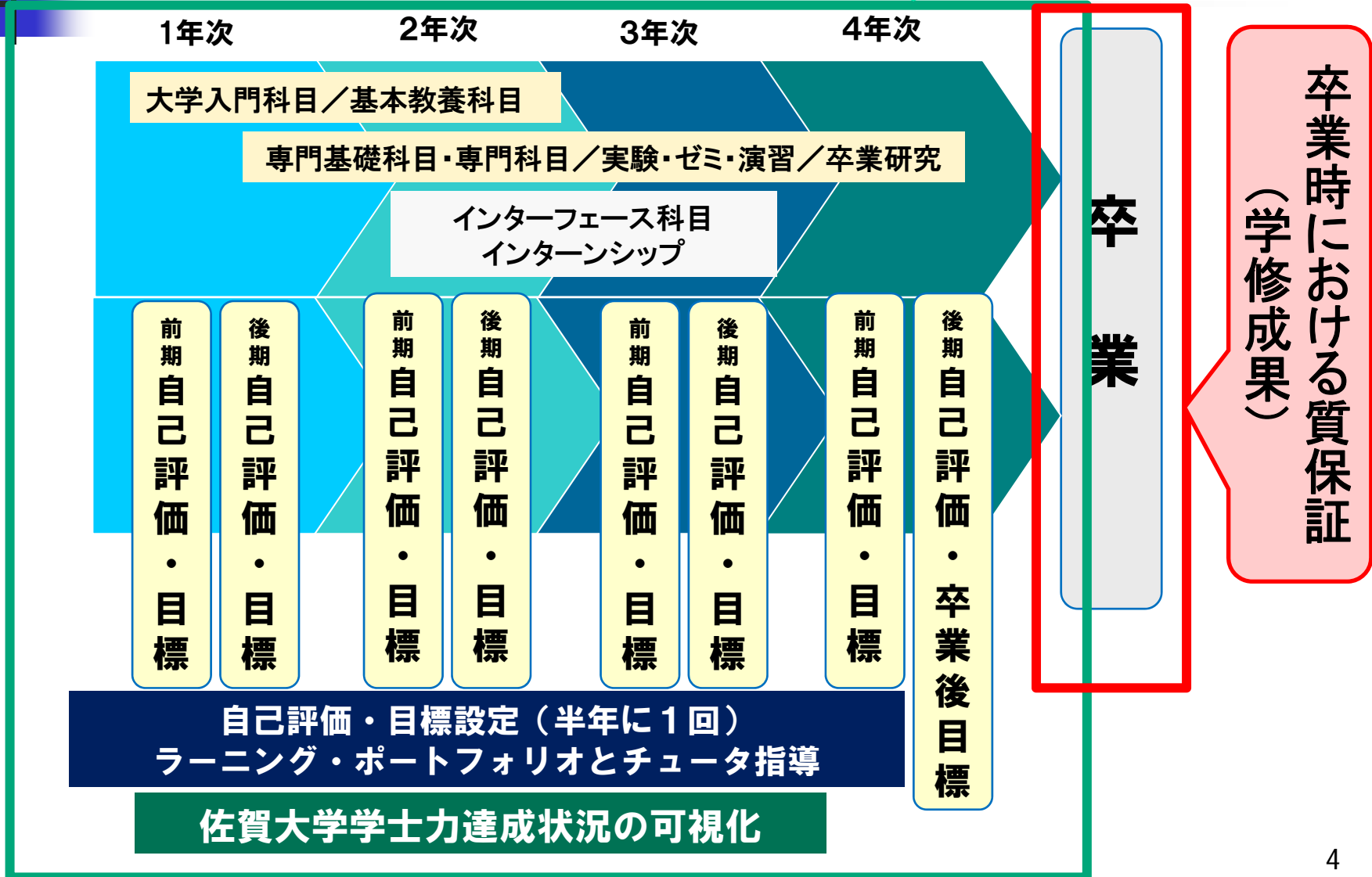


VerifyとAssure

- **Assure**(人に確かに～だと言う/保証する)
 - Tell someone something positively to dispel any doubts
「保証」:大丈夫だ、確かだとうけあうこと
広辞苑(第6版)
- **Verify**(正しいこと/事実であることを, 確かめる/証明する/検証する)
 - Make sure or demonstrate that (something) is true, accurate, or justified
出典:ジーニアス英和大辞典
Oxford Dictionary of English, Second Edition Revised

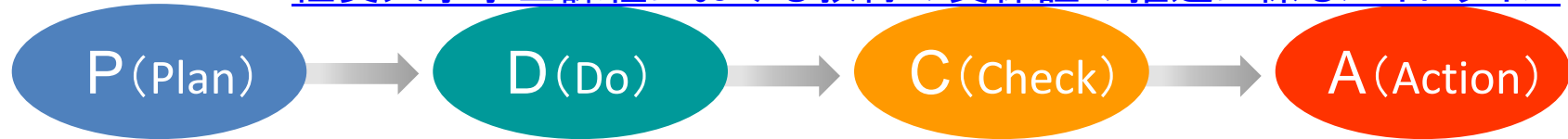
教育活動と質保証

内部質保証



佐賀大学における教育の内部質保証の取組

佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン



到達目標・方針等

目標・方針等の実行

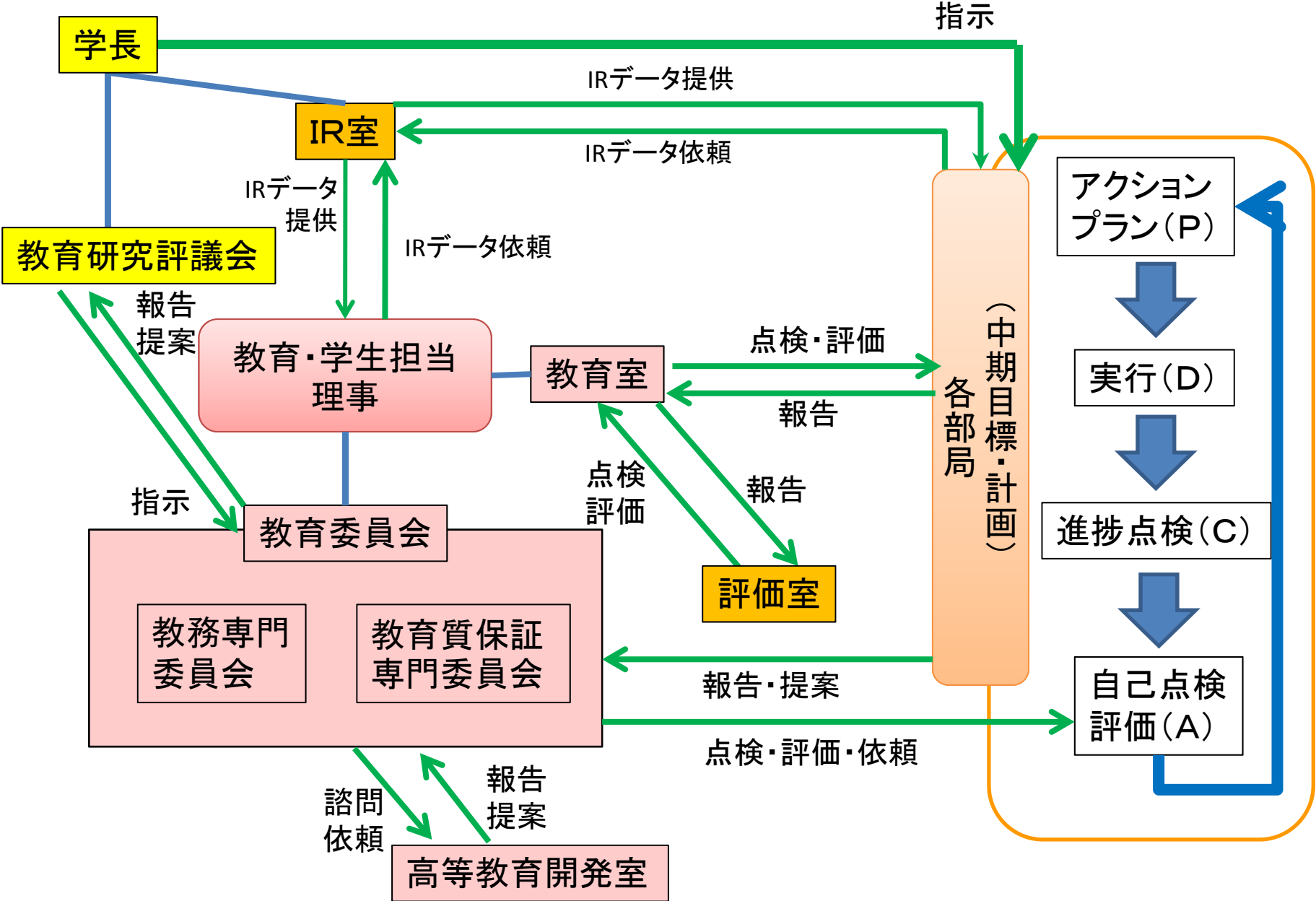
点検・評価

改善策の策定・実施

	到達目標・方針等	目標・方針等の実行	点検・評価	改善策の策定・実施
大学	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀大学憲章 佐賀大学中長期ビジョン <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐賀大学学士力 教育の質保証に関する方針 	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援の実施 <ul style="list-style-type: none"> 新任教員研修会の実施 各種講演会・研修会の開催 学修・生活支援の実施 <ul style="list-style-type: none"> 各種アドバイザー、手話通訳等 ICTを活用した自学自習支援 奨学金による経済支援、留学支援 教育情報の収集・公表 教育の質の維持・向上の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学習成果を含む教育活動等の検証 <ul style="list-style-type: none"> 学生の意見の聴取 教職員の意見の聴取 学外者の意見の聴取 外部資格試験等の実施 入学後の履修状況調査 教育功績等表彰、学生表彰等 IRデータによる分析及び自己点検・評価 <p>↑</p> <p>検証結果の公表</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検証結果の学部へのフィードバック 各種事業の見直し 研修等の企画・実施 調査研究の実施 インセンティブ付与等
学部・学科等	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与の方針 教育課程編成の方針 入学者受入の方針 カリキュラムマップ コースナンバリング 教員選考に関する教育の評価に関する方針 	<p>連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者受け入れ方針に沿った入学者の確保 教育課程編成・実施の方針に沿った教育プログラムの編成と実施 学位授与の方針に沿った学位授与 教員への教育支援、学生への学修・生活支援の実施 適切な授業担当教員の配置 	<p>連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> LPを用いた学士力の修得状況の点検 成績評価、卒業判定の適正性 卒業試験、外部資格試験等の実施 ステークホルダーからの意見聴取 履修登録単位数の制限 シラバス、コースナンバリングの点検 教員配置の適正性 個人評価の実施 	<p>連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修等の企画・実施 教育課程編成の見直し 教員人事計画の見直し 個人評価結果の通知等
教職員	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導計画 授業計画 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスに沿った授業の実施 厳正な成績評価 TAやRAへの事前研修等 予習・復習等の課題提示、補習 チューターによる学修相談・助言 計画的な研究指導 研究活動の授業への反映 	<ul style="list-style-type: none"> 個人評価、評価基礎情報DB登録 卒業研究等に基づく研究指導の検証 定期試験、レポートによる成績評価 学生による授業評価 成績評価の異議申立てへの対応 評価基礎情報DBへの登録 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインシラバス等の見直し 授業内容・方法の改善 TPの作成・更新 学内外の研修等への参加



教育の内部質保証体制





評価反映特別経費 (学長経費)

IR室が提供するデータにもとづき配分額を決定

平成27年度
予算枠増額
5000万円

教学指標

オンラインシラバスの入力率 ティーチング・ポートフォリオの教員作成率
ラーニング・ポートフォリオの学生入力率
ラーニング・ポートフォリオの教員入力率
FD講演会等の参加者数及び参加率
就職率(国家試験合格率) 進路把握・追跡調査状況
入学志願者倍率
退学(除籍)率 休学率
最低在学年限超過率
全学教育機構の授業担当コマ数
全学教育機構の併任教員数
休講回避状況及び代替措置実績
授業点検・改善評価報告書入力状況
大学院研究指導実施報告書の入力状況

学術・研究指標

科研費の申請件数 科研費の採択件数
外部資金等受入れ額及びその増加率
著書・原著論文・総説数

地域・国際貢献指標

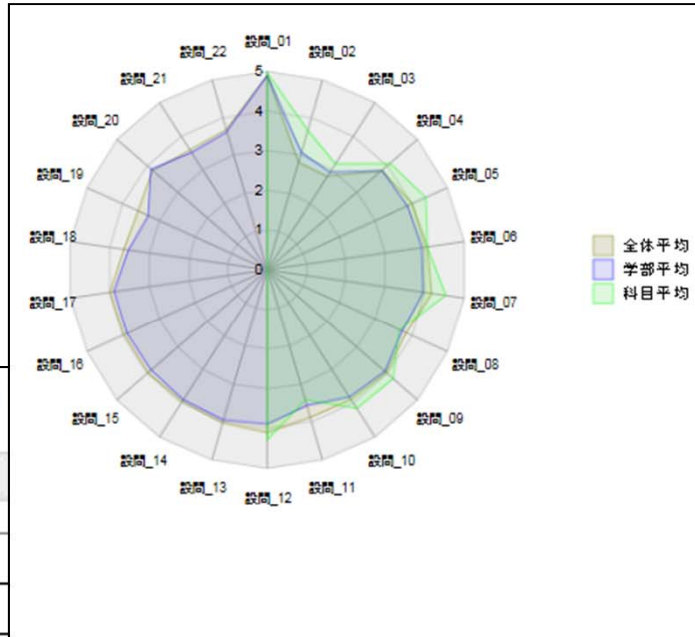
国・地方公共団体等の審議会・委員会の参画件数
聴講生等数
学術交流協定校との交流数
アンケート回収率

経営基盤指標

教員基礎情報DBの入力率
入学定員充足率
コンプライアンス教育の実施状況等¹⁴

授業点検・改善報告例

佐賀大学 授業点検・改善	
氏名	皆本 晃弥
年学期	2015年度 前学期



設問_01	出席率はどのくらいですか。/ What is the percentage of your own class attendance during the whole class?
設問_02	授業時間外学習(予習や復習、授業時間後に行ったレポート作成など)は、1回の授業ことどの程度しましたか。
設問_03	この授業の選択・予習・復習などのためにシラバスを活用しましたか。/ Did you make use of a syllabus to choose this class or to prepare and review the lessons?
設問_04	この授業の学習到達目標や成績評価基準を把握していますか。/ I understand the objectives and assessment of academic achievement of this class.
設問_05	教員の教育理念に基づいた教育方法や成績評価方法等の説明は有益でしたか。
設問_06	担当教員は、あなたの質問や相談に適切に対応してくれましたか。/ The teacher's responsiveness to students' questions and concerns was appropriate.
設問_07	教員の授業に対する意欲や熱意が感じられましたか。/ The teacher appeared enthusiastic and interested.
設問_08	この授業の学習到達目標を達成できましたか。/ I reached the class objectives.
設問_09	授業の内容はシラバスに基づいていましたか。/ The class was conducted based on the syllabus.
設問_10	教材(教科書、配布資料)やICT環境(LiveCampus、講義配信システム、各授業の講義用Webページ、ネット授業、eラーニングなど)は授業の理解に役立ちましたか。
設問_11	この授業では、必要に応じて学生に発言を促したり、グループワークやディスカッションを実施する等、授業内容について学生自身が考えることを促すための配慮がありましたか。
設問_12	この授業は全体として満足できるものでしたか。/ Overall, the class was satisfactory.

●授業の優れていた点【授業全体/科目別】

線形数学および線形計算特論の授業時間外学習時間は、それぞれ3.649と4.667であり、学部平均3.081、研究科平均3.342を上回っており、学習時間の確保するというねらいはある程度達成できている。また、線形数学および線形計算特論において、授業に対する意欲や熱意がそれぞれ4.544と4.333、満足度がそれぞれ4.281と4.167であり、一生懸命に講義の準備をして授業に臨んでいることが学生にも伝わっていると思われる。

●授業の改善を要する点【授業全体/科目別】

線形数学および線形計算特論における学習到達目標達成状況については、それぞれ3.667と3.5であり、他の項目に比べると低いし学部および研究科平均よりも低い。

授業改善目標

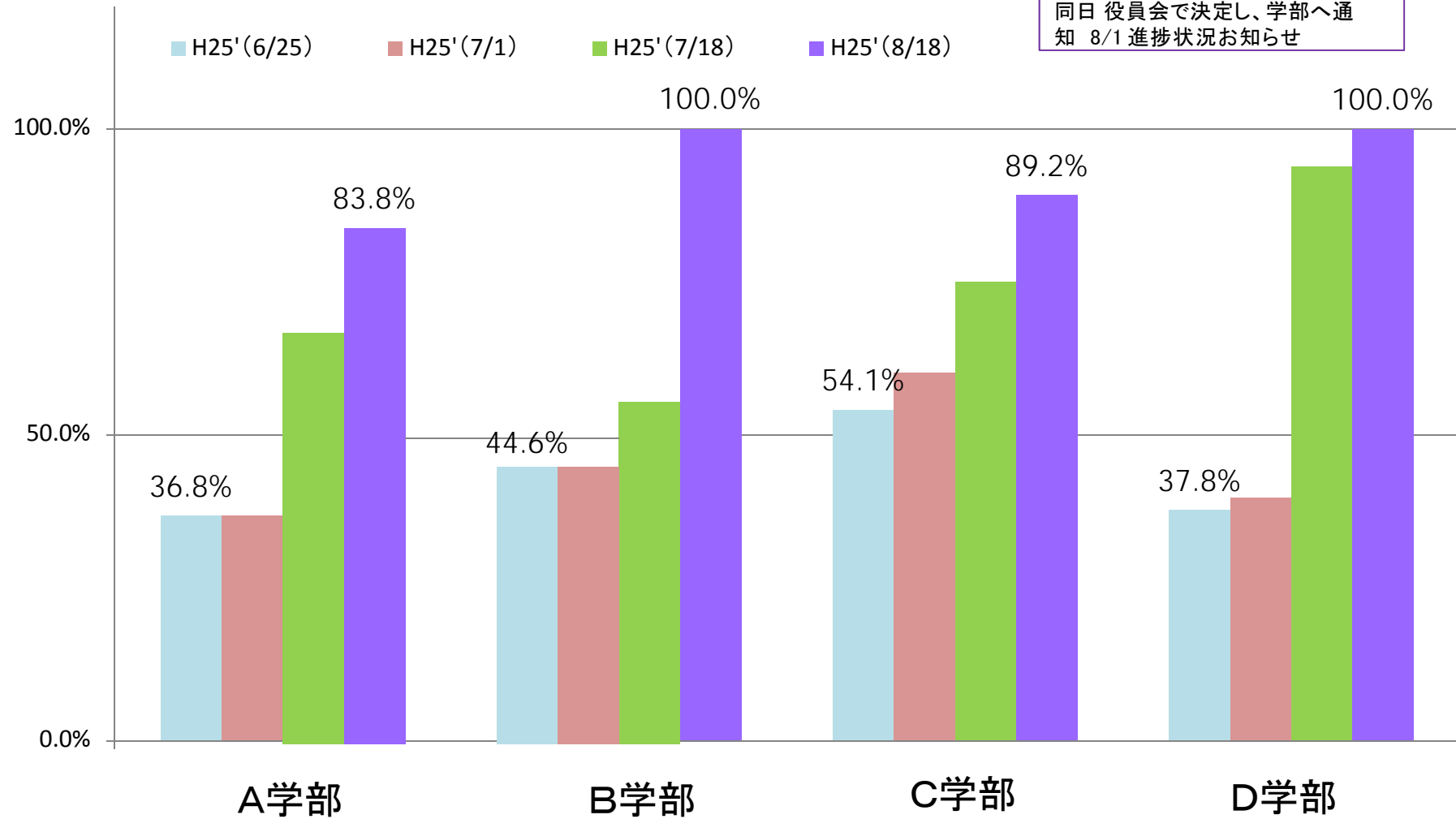
数学科目では、なかなか学習到達目標の達成を実感させるのが難しいが、内容を精査し、講義順序も再検討して「わかった」ことを実感させられるように講義設計を見直したい。



影響機能の事例

授業点検・改善評価報告書
の入力率向上

6/25 IR室会議で指摘
同日 役員会で決定し、学部へ通
知 8/1 進捗状況お知らせ



佐賀大学 ポートフォリオ学習支援統合システム

学生の修学支援、教員の教育改善のための**道具**

修学支援

ラーニング・ポートフォリオ

チューター制度

教職カルテ

教育改善

ティーチング・ポートフォリオ

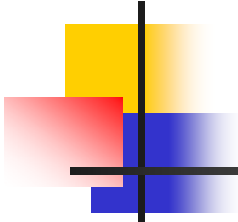
授業点検・改善報告

研究指導実施報告(大学院)



教育の質保証をするには？

- 教員に、本学に雇用されている**教育者**であるという自覚をもってもらう
- 全教員に簡易版ティーチング・ポートフォリオ (TP) の作成を義務付ける
- 第3期中期計画012
 - 教員の教育力向上のために、**簡易版ティーチング・ポートフォリオの作成・更新率100%**を維持し、それを利用した教育改善のFD活動を活発化させるとともに、**標準版ティーチング・ポートフォリオの作成・更新率を全授業担当教員数の15%以上とする**。また、新規採用の教員における**教育業績評価に活用**する。



ティーチング・ポートフォリオ (TP)

- 自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、様々なエビデンスによってこれらの記述を裏付けた教育業績についての厳選された記録

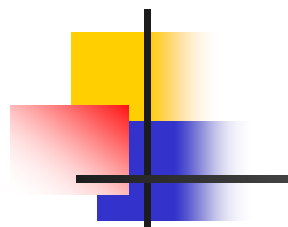
出典：栗田佳代子、リーフレット「ティーチング・ポートフォリオって何だろう」

教育活動の可視化

標準版TPと簡易版

教員が一人で教員室に閉じこもって書くことはない

	標準版TP	簡易版TP
作成に必要なWS	2泊3日の作成ワークショップ(TPWS)	3時間程度のミニワークショップ
主な項目	責任、理念、方法、成果、改善、目標	責任、理念、方法
自己省察支援	メンターとのメンタリング	ペアワークによる対話
自己省察対象	教育活動すべて	特定の科目、あるいはいくつかの教育活動をピックアップ
本文の量	A4用紙で8~10枚	A4用紙で1枚程度、ポートフォリオ学習支援統合システムに入力
ワークショップ開催回数・対象	年2回程度、学外教員も受け入れる	年10回程度、本学教員のみが対象



氏名 皆本 晃弥

教育の責任

「線形数学I」(1年次前期専門必修科目2単位)、「線形数学II」(1年次後期専門必修科目2単位)、「基礎解析学I」(1年次後期専門必修科目2単位)、「基礎解析学II」(1年次後期専門必修科目2単位)、「工業数学I」(2年次前期専門必修科目2単位)、「卒業研究」(4年次通年必修12単位)など

教育の理念

私の教育の理念・目的は、「良識をもった結果の出せる人材(人財)を育成する」とこととしている。本学科・専攻の卒業・修了生は、多くは技術職に就くが、それ以外にも教職を含む公務員や総合職など様々な分野へ進む。各分野において、決して迷惑をかけるような人(人罪)になるのではなく、宝(人財)になってもらいたい。

教育の方法

「結果が出せること」を重視し、私が担当している数学科目では、レポートによる評価ではなく、すべてを試験によって評価している(エビデンス1,2)。これにより学生の甘えを断ち切り、結果を出すことの重要性を体感させる。また、宿題には教科書の演習問題を指定している。この演習問題は意図的に多くの問題には解答が掲載されておらず、あったとしても略解である(エビデンス3)。これは「答えが分からない問題へのチャレンジ精神」、つまり、デザイン能力の一端を養うことを意図としている。

さらに、私が担当している数学科目では、毎回、宿題を課すだけでなく、講義内で小テストと確認テストを実施している(エビデンス4,5)。もちろん、なるべく興味を与えるような説明も行うが、あくまでも重視しているのは「結果を出すことの重要性」である。技術者で要求される知識の多くは積み上げ式なので、基本的な知識がなくては新しいことを考えることもできない。そのため、再試験を行う際にも、自習を義務付けて、試験で結果を出すことを要求している(エビデンス2, 6)。なお、学生は講義用Webページにて、自身の小テスト・確認テストの得点獲得率状況を確認できるようにし、各テストの解答例も提示している(エビデンス4)。

エビデンス

- 【エビデンス】
- 1. 成績原本(Web上非公開)
- 2. シラバス(シラバスへのリンクを参照)
- 3. 教科書
- 4. 講義Webページのスクリーンショット(Web上非公開)
- 5. 採点済みの小テスト・確認テスト(Web上非公開)
- 6. 学生が提出した再試験願(Web上非公開)

参考資料

参考URL

[【エビデンス3】執筆した教科書リスト](#)

標準版TP

[標準版ティーチング・ポートフォリオ2011年版](#)

シラバス

年度	シラバス
	基礎解析学 I
	工業数学 I

簡易版
TP例

ステークホルダー向け TP例

教育理念 (どのような学生を育てたいのか?)

良識をもった結果が出せる**人財**(×人罪)を育成する

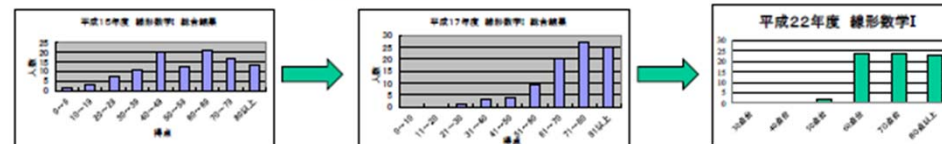
教育方法 (教育理念を達成するための方法は?)

- 担当数学科目では、宿題を毎回課し、小テストと確認テストを実施
 - 成績評価はテスト(小テスト・確認テスト・定期試験)のみで行う
 - 講義ビデオ配信やTBLなどによる**主体的な学び**を促進
 - 小テストと確認テストの成績が悪い学生に対しては面談を実施
 - 再試験受験時には30~60時間程度の自習を義務付け
- 研究室の学生(学部・大学院)には、毎週、ゼミで発表を義務付け
 - 研究テーマは個別に設定
 - 研究室独自のルーブリックに基づき人物面も評価
 - 大学院生には学外での発表を奨励
- 答えを教えるのではなく、学び方を教える
 - お金をあげるのではなく、稼ぎ方を教える
- 段階的な人材育成

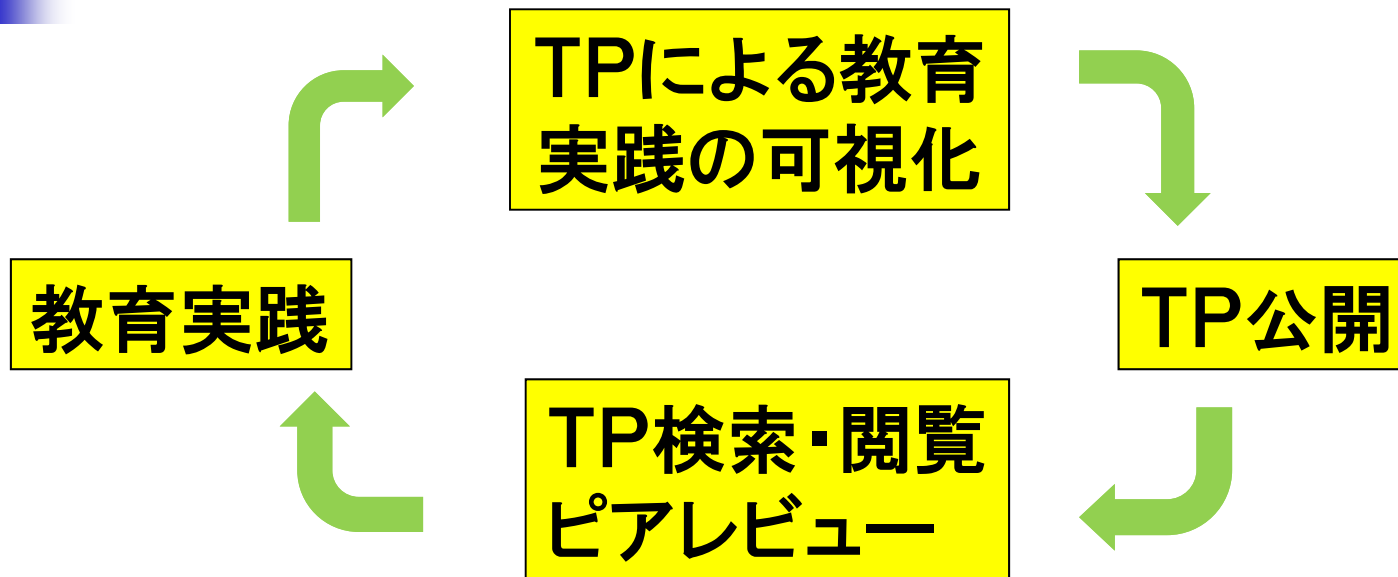
1	学部1~2年次	ほとんど誘導されて問題を解決する(強制的に行う)
2	学部3年次	半ば誘導されて問題を解決する
3	学部卒業レベル	課題のみを与えられて、問題を解決する
4	大学院修了レベル	自ら問題を発見し、解決する

成果 (その結果どうだったか?)

- 研究室発足時から16年連続(2000年度~2015年度)、本研究室の卒業・修了生の**進路決定率100%**
- 数学科目で学生の成績が向上



TPによる教育改善サイクル



TP 関連書籍



「ティーチング・ポートフォリオ 導入・活用ガイド: 大学教員の教育者としての業績記録」、皆本 晃弥著、近代科学社、2012年発行

カークパトリックモデルによるTPWS評価例

1. 反応(Reaction)
 - TPWSおよびTPに対する満足度が高い
2. 学習(Learning)
 - TPWSで教育活動の振り返りができた
3. 行動(Behavior)
 - TPの目標を達成するように行動した
4. 結果(Results)
 - 卒業予定者アンケート、授業アンケートで高評価
 - 当該教員が担当する分野の実習を希望する学生が増えた



ティーチング・ポートフォリオ (TP) とは

自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた教育業績についての厳選された記録。

(栗田佳代子氏、リーフレット「ティーチング・ポートフォリオって何だろう」より抜粋)

佐賀大学TPの特徴

☆ティーチング・ポートフォリオ・ネットのティーチング・ポートフォリオワークショップ (TPWS) 基準に準拠したTPWSを開催し、合宿形式でTPを作成
☆作成されたTPの多くは本学高等教育開発室HPで公開

☆他大学の教員も受け入れており、九州におけるTP作成拠点

- ! 2009年9月~2015年9月までに、TPWSを14回開催 !
- ! 100名の教員 (学内70名、学外30名) が本学TPWSでTPを作成 !
- ! TPWSでは、TP発表会を行い教育に関する情報共有とディスカッション !

☆本学独自のTPとして簡易版TPを用意

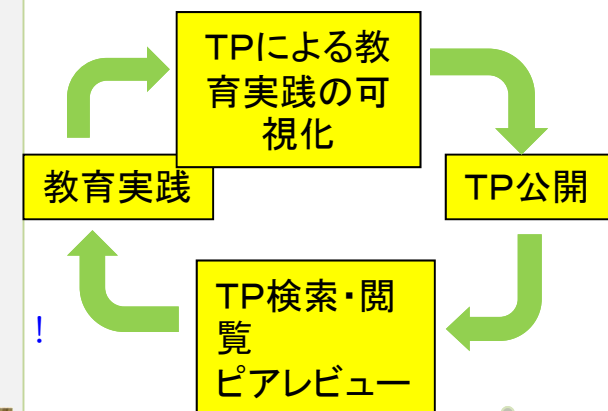
- ! 簡易版TPでも、TP作成の根幹をなす「自己省察」「メンターとの共同作業」を重視し、ミニワークを通じて簡易版TPを作成し、必要に応じてメンターメンタリングして、改善を図っている !
- ! 学生・教職員は簡易版TPの検索・閲覧が可能 !
- ! 平成27年度までに全教員が簡易版TPを作成 !



☆平成27年度より、教員はTPに基づいて教育理念と教育方法を学生に説明

☆TPを教員採用時に活用している部局あり。第3期中期目標期間では全部局で活用へ。

TPに基づく教育改善



TP関連書籍



「ティーチング・ポートフォリオ 導入・活用ガイド: 大学教員の教育者としての業績記録」、皆本 晃弥 (高等教育開発室長) 著、近代科学社、2012年発行



佐賀大学学士力

- 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」を受け、平成22年2月に佐賀大学学士力を策定
- 分野(学部・学科・課程)によらず、佐賀大学の全学生が卒業時に身につけるべき能力

1. 基礎的な知識と技能

- ① 文化と自然
- ② 現代社会と生活
- ③ 言語・情報・科学リテラシー
- ④ 専門分野の基礎的な知識と技法

2. 課題発見・解決能力

- ① 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力
- ② プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力
- ③ 課題解決につながる協調性と指導力

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- ① 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力
- ② 持続的な学習力と社会への参画力
- ③ 高い倫理性と社会的責任感



佐賀大学学士力と学位授与の方針

- 各学部・学科(課程)は、教育目的に照らして、卒業までに学生が身に付けるべき体系的・具体的学習成果の達成を学位授与の方針として定めている

【医学部看護科の例】

1. 知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在を歴史・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術(ICT)などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 看護学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、看護職者としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や多面的な臨地実習の学習を通して地域における保健・医療・福祉をめぐる動向等を含む現代的な課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 専門的な看護実践の学習を通して看護理論やエビデンスの検証を基盤にした保健・医療の進歩における看護学研究的必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) グループ学習や臨地実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 看護を担う社会人としての資質

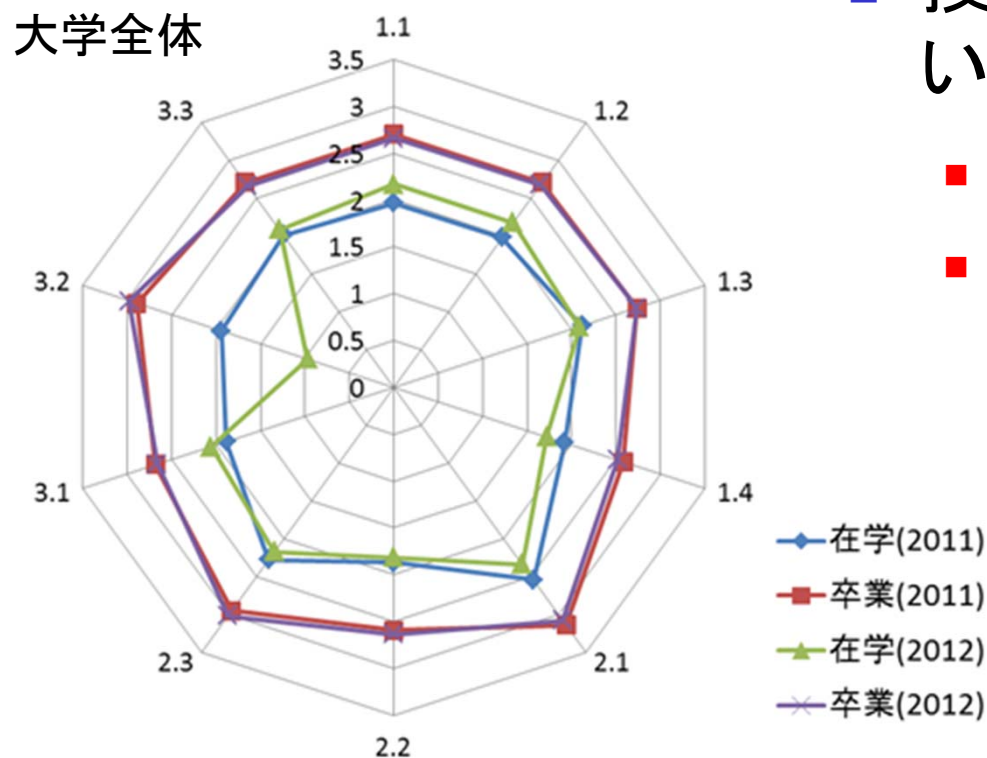
- (1) 看護過程の展開における課題解決(型)学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず看護の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (2) 4年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解しうる豊かな人間性を育み、看護職者の責務への十分な自覚のもとに、自らを律して社会および看護職者の規範に従って行動できる。

学生の学修成果の可視化

- 佐賀大学学士力の各項目に授業科目を対応させる
- 達成度は、各項目ごとの科目平均GPAで可視化

- 授業科目の質が担保されていないといけない

- シラバスの組織的な点検
- 科目の成績分布の検証



シラバス点検表

シラバス点検表

科目名： _____ 開講時期 _____
 担当者： _____ 作成者： _____
 点検者： _____

学士力番号	<input type="checkbox"/> 対応する学士力番号すべてを記載している。【学士課程のみ必須】
講義形式	<input type="checkbox"/> 授業形態を単位数と授業時数に基づいて記載している。【必須】
講義概要	<input type="checkbox"/> 教員の観点から、授業内容、実施方法、全体の流れ、心構えなどが大まかに記述されている。【必須】
開講意図	<input type="checkbox"/> 学生の観点から、授業のねらいや目的などが、分かりやすく記述されている。 【必須】
到達目標	<input type="checkbox"/> 学生にできるようになってほしい事柄が、分かりやすく記述されている。【必須】 <input type="checkbox"/> 達成度が測定できるように1つの文章に1つの目標が記載されている。【必須】
履修上の注意	<input type="checkbox"/> 事前に履修が必要な科目や能力が記載されている。 <input type="checkbox"/> 利用する機器あるいは利用していない機器などについて記載されている。 <input type="checkbox"/> 履修する際の心構えやルールなどが記載されている。
授業計画	<input type="checkbox"/> 半期 15 回分（通年 30 回分）を回ごとに記載している。複数回「 フットエリア 」記載する場合は、その内容を具体的に書いている。【必須】 <input type="checkbox"/> 授業時間以外の学習について具体的に記載している。「特になし」等、授業時間外の学習が不要と勘違いされるような表現をしていない。【必須】
成績評価の方法と基準	<input type="checkbox"/> 成績評価方法、基準、割合が明記されている。【必須】 <input type="checkbox"/> 成績評価方法は、すべての到達目標と対応づけられている。【必須】 <input type="checkbox"/> 「平常点」を成績に考慮する場合、「平常点」の内容を具体的に記載している。【必須】

成績評価の妥当性検証例

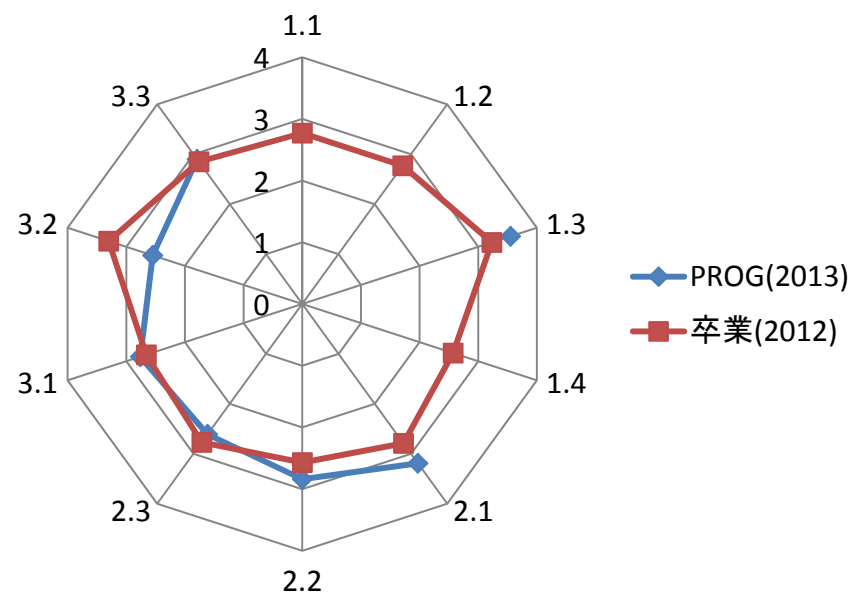
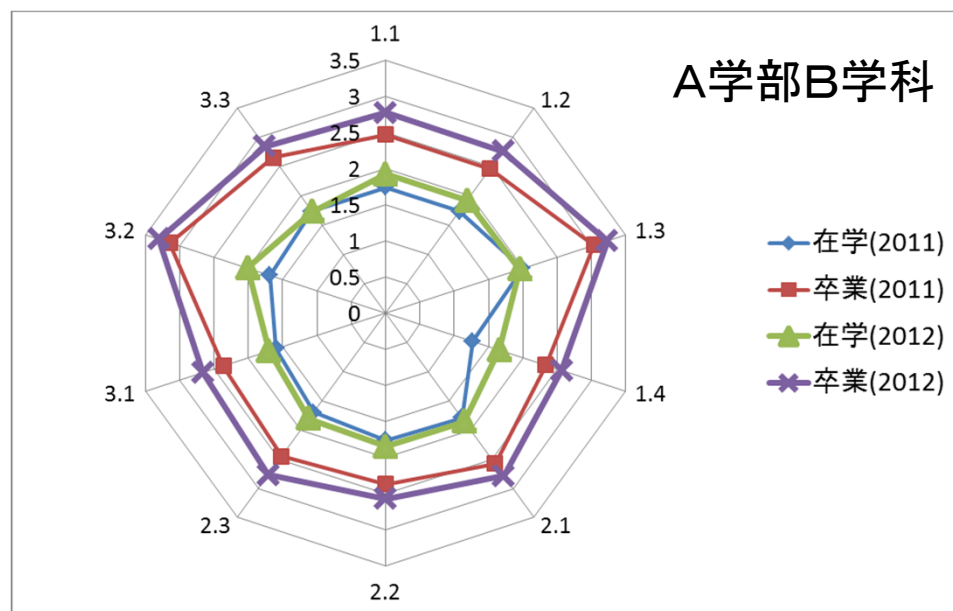
学部： []

IR 室から提供された、各授業科目の成績度数分布をもとに、各学科で授業科目ごとの成績分布を点検した。

学科	検討状況	今後の改善策
[]	多くの科目では、正規分布に近い形をしているが、一部の科目において「秀」と「可」に多く集まる二極化の傾向が見られる。	学力レベルの低い学生を考慮して、講義と演習の授業において基礎的問題に焦点を当てて、丁寧に解説をしていく。
[]	科目によって成績分布の傾向が異なるが、大雑把に云って正規分布に近い科目と、二極化した分布の科目に大別できそうである。	現在のところ、喫緊に改善を要する科目は見られない。
[]	本学科の専門必修科目のうち、在学生の合格率が80%未満の科目が10科目あった [] [] 本学科の専門選択科目のうち、在学生の合格率が80%未満の科目が5科目あった [] [] これらの科目の度数分布には、“可”が多いという特徴があった。	合格率の低い科目の担当教員を含む学科全体に、合格率の現状を教室会議で周知した。 また、合格率の低い専門必修10科目と、同じく合格率が80%未満であった初修外国語2科目に対しては、いずれの科目の単位を落としても留年することが無いように、次学年の必修科目と同時間帯にならないように（コマが重ならないように）、時間割を変更した。
[]	平成25年度に比べて平成26年度前期の状況では、たいていの科目で正規分布からのずれが改善された。しかし一部の専門科目で不可や可の評価の割合が増加している。	学科内の教育改善委員会から平均点数が60点に満たない教科及び90点以上の教科の担当者に対して改善案の提示を求めた。また、改善案の妥当性に対しては学科内の教育改善委員会において精査している。
[]	ほとんどの科目で、正規分布に近い分布となっているが、一部の専門科目で、不可や放棄の評価の割合が増加し分布の二極化傾向が認められる。	平成26年度から、これまで2年次で開講していた機械工学基礎演習（自由科目）を1年次から受講できるように時間割を変更した。今後の成績分布の推移を点検することで、更なる改善策を検討したい。
[]	科目グループ会議、カリキュラム検討委員会において、提供された資料をもとに必修科目の成績分布を点検した。その結果、全ての必修科目で妥当な成績評価が行われていることを確認した。	現時点で改善が必要と判断された科目はないが、今後も定期的に点検を行うことが確認された。
[]	ほとんどの科目では、正規分布に近い分布となっているが、一部の基礎科目では、近年の入学者学力の低下を反映して、可、不可の割合が多くなっている。	教育システム委員会で1年次数学科目の内容構成について議論し、一部、難解と思われる内容を2年次以降の選択科目に移行した。

外部アセスメント試験の活用

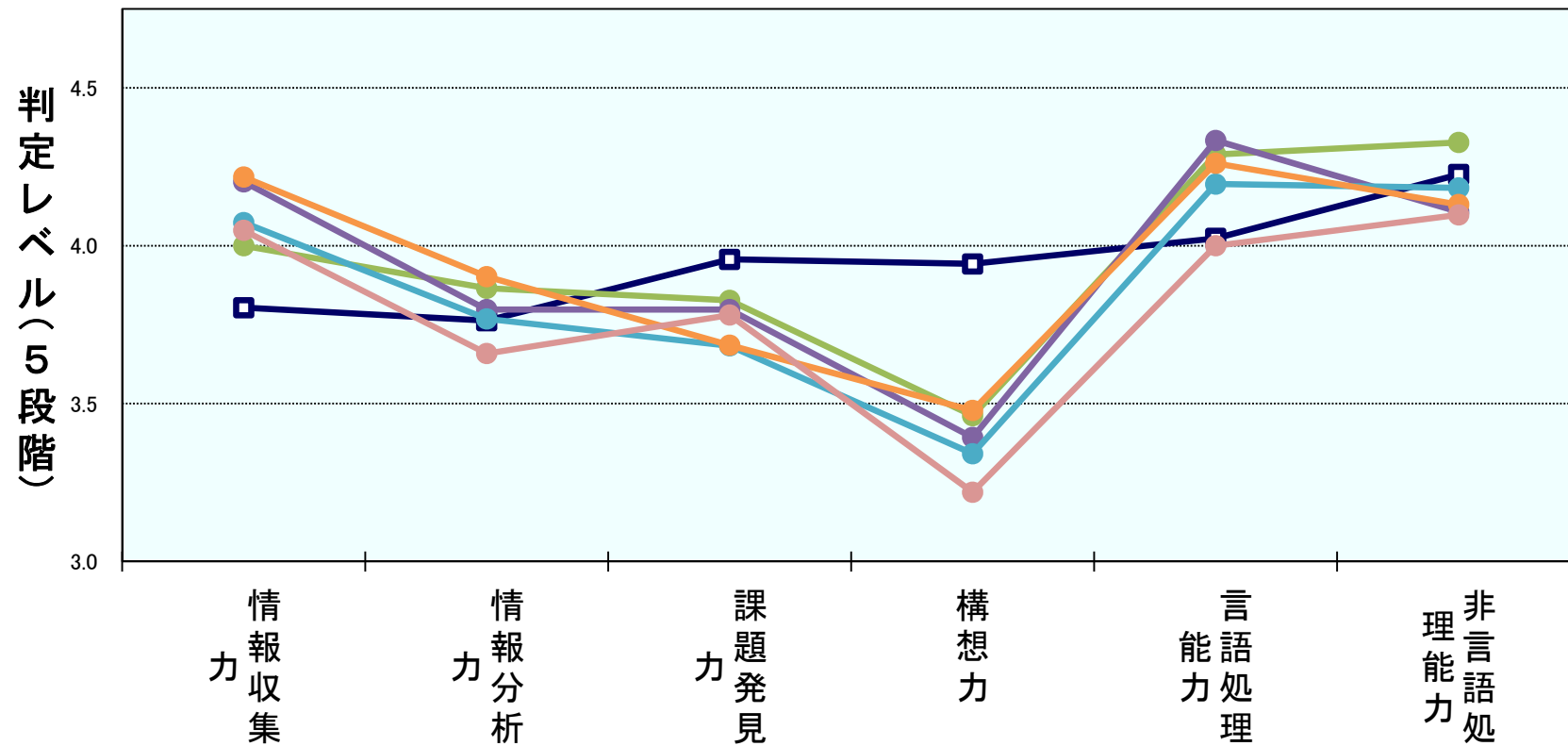
- PROG (Progress Report On Generic skills) を3年次後期に試行的に実施



平成28年度中に学士力の達成状況を評価するためのルーブリックを策定予定

PROGによる可視化(リテラシー要素)

□ 国公立大学3年(工学系)



6. ラーニング・ポートフォリオ (LP)

ラーニング・ポートフォリオ (LP) とは

自らの学習活動について振り返り、自らの言葉で記し、様々な根拠資料によってこれらの記述を裏づけた学習実践について厳選された記録。

大学生活を通して経験する授業、日常生活などすべてのことから、何を学んだのかということ振り返り、それを自分自身の言葉で書き記したもの。また、それを証明する根拠資料も同時に残すことで、根拠に基づいた振り返りを行い、記述内容の客観性を保証。LPは**大学生生活の記録であり、学生自身の成長の足跡**。平成23年度より全学的に導入。平成24年9月21日付朝日新聞でも紹介。

メリット

1. やる気を持続

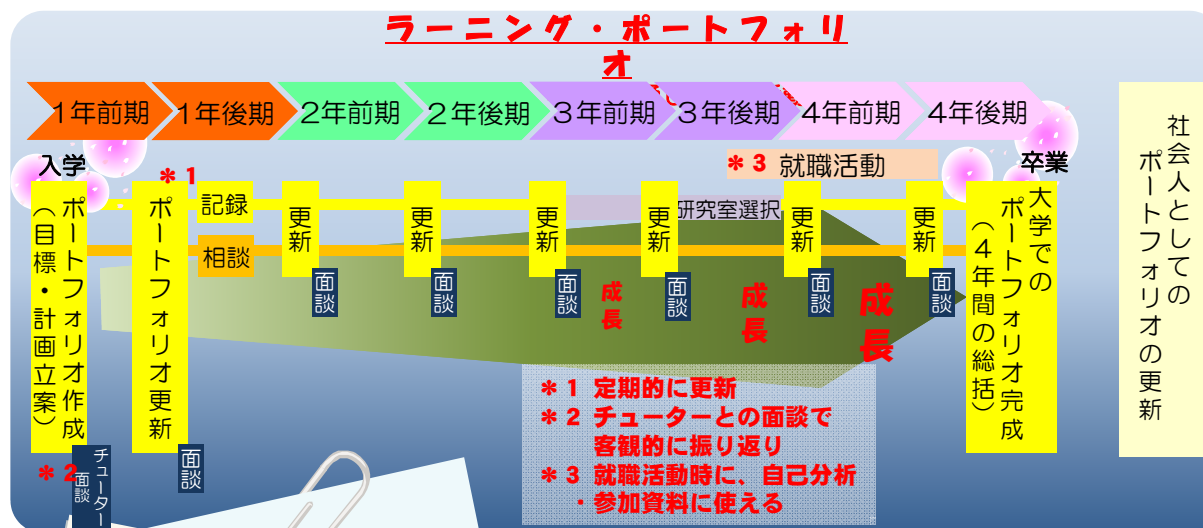
大学生活は、それまでとは違い自分自身で**自分をコントロール**しながら授業や研究に取り組まなければならない。したがって、**自己管理**が強く求められる。LPには、入学からの**目的・目標**が書かれているので振り返り、**自分自身で評価**することでやる気を持続。

2. 成長を実感

LPでは、自分自身の振り返りを証明する根拠資料が不可欠。**学習時間**や**出席状況**、**学習の成果**、**チューターからのコメント**など振り返る際の**様々な根拠**があるため、より**客観的な振り返り**が可能。自分自身の成長を客観的なデータに基づいて実感。

3. 就職に有利

就職などの**進路選択**の機会では、自分自身の**適性**やこれまでどのようなことに興味を持ってきたのかということ振り返る。1年生の時から記録することで、自分自身の**興味・関心**やどのような分野の**専門性**に強いのかということを確認することが可能。就職活動のエントリーシート**記入**や**面接**、大学院への進学など進路選択の機会に非常によい参考資料となる。



ラーニング・ポートフォリオの記載内容

- 将来、何をしたいのか
- 大学で、何をしたいのか
- そのために今、何をやるのか
- どのようにやるのか
- どのようにやったのか
- やってみてどうだったか
- こうやれば・・・ (アドバイス)
- 成果データ (根拠資料) 保管





今後の展開

- ルーブリックによる学力達成状況の可視化
- 全授業科目にアクティブ・ラーニング(能動的・**脳動的**学習)を導入
- アセスメントポリシー策定
- AP見直し(学力3要素を考慮)
- 教員組織と教育組織の分離
- 外部アセスメント試験(PROG等)の活用
- LPに基づく卒業認定申請制度の創設
- 副専攻の導入(企業や地方公共団体とも連携)
- カークパトリックモデルに基づく研修・教育成果の検証